

## 第6回平和首長会議国内加盟都市会議総会 佐藤一夫市長講話（要旨）

平成28年11月8日（火）

於：千葉県佐倉市「ウィシュトンホテル・ユーカリ」

私がどうしても今日ここで皆様方にお話をしたかったのは、私は行政の中で「平和」「人権」「教育」「環境」を常に全政策の冠としているということです。

特に「平和」と「人権」は同義語と考えております。しかも、この二つは日常語でなければいけない。一過性のイベント行為では私はどうも腑に落ちません。日常行為の中にあって初めて、「平和」「人権」の問題を考えることができます。これは、人類が平和で健やかに隣人同士として豊かに過ごすために、一番大事な要素だと思っているからです。

そのために国立市は何を考えたかという<sup>くぐてん</sup>と、口伝です。口伝を他人から受け、自発的且つ主体的にどれだけ行動を取ることができるかが大切だと思います。

もう一つは、戦争と被爆についてです。今日ここにおられる広島の皆様、長崎の皆様が受けたことです。今も核実験と称し、一部の国や地域の方が大きな迷惑を受けています。しかし、なぜ被爆国となってしまったか。そして、なぜ広島と長崎に原爆が投下されなければならなかったのか。自分に、日本国の一部に、その責任はないだろうか。国立市は来年から、もう一つの口伝を始めます。それは加害者としての日本人についてです。

この二つの視点を含め、今年16の平和事業を実施しています。我々がこれから先どう生きるべきか考えたとき、行政人として、地球的な規模の「平和」「人権」を考え、進めていかなければならないと思います。

国立では、昭和25年の朝鮮戦争の勃発に伴う立川市の米軍進駐の影響を受け、米兵相手の簡易旅館や飲食店の出現がありました。これは子どもの教育に良くないというお母さん方の運動が始まり、国立の伝統を活かして文教都市を結成するのだという方々が生まれ、その大変な努力の結果、町議会において1票差で文教地区指定を勝ち得ました。

つまり、平和を勝ち取った体験が生い立ちとなり、今の国立市に連綿として続いているということであって、私は「平和」「人権」に関して、やりたいことはきちんとやらせていただくという思いで東奔西走しております。

最後に、私の平和への考えと今後の決意を伝えさせていただきます。なぜ国立市が、そして行政が、平和・人権施策を行っているのかということです。

### 「平和・人権行政の使命」

平和・人権は普遍的な人類のテーマである

私は 市民から選ばれた一為政者として  
この壮大なテーマから逃避せず 未来に向け 挑戦する

私は 平和と人権を尊重し これを声高に主張することで  
自己に 責任と義務を課さねばならない

日常の連続こそ 人類の争いを回避する唯一の手段である

私は すべての市民が地域で幸せに暮らせるよう  
市民の命を守りぬく決意である

どうもありがとうございました。